

【短報】ネアカヒメフトコメツキダマシの雌の形態

ネアカヒメフトコメツキダマシ *Bioxyllus natsumiae* Watanabe, 2009 は、上翅基部が赤みを帯びる特徴のある種である。岡山県で発見されて以降、群馬県、長崎県、鹿児島県から点々と記録がなされているが（今坂・阿比留, 2012; 鈴木, 2016）、これまで本種の雌の形態についての報告はなかった。筆者は、宮崎県で採集された雌個体を検することのできたので、雌雄の形態的な違いについて明らかにしておきたい。

検視標本：1♀ (Figs. 1 & 3), 宮崎県宮崎市田野町甲朝陣野, 22. VII. 2016, 笹岡康則採集 (FIT).

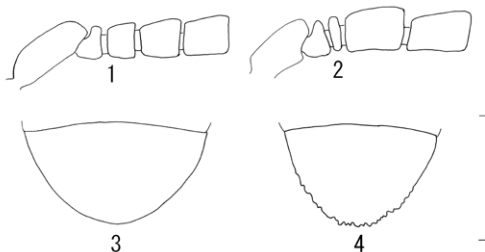
比較標本：1♂ (Figs. 2 & 4), 鹿児島県肝属郡南大隅町杉山谷, 16-17, VIII. 2014, 野田亮採集 (FIT).

体形や色彩は雌雄ほぼ同様であるが、触角および腹部末端節の形状において違いが認められた。触角は雄では第3節が第2節より明らかに短く、これら2節を併せた長さは第4節より明らかに短い（Fig. 2）、雌では第3節が第2節より明らかに大きく、これら2節を併せた長さは第4節とほぼ同長（Fig. 1）となる。腹部末端節は、雄では不揃いな鋸歯状になるが（Fig. 4）、雌ではほぼ一様に弧状となる（Fig. 3）。

分布：本州（群馬県、岡山県）、九州（長崎県、宮崎県、鹿児島県）。

備考。筆者は、先の報告（鈴木, 2016）において、本種は原記載後の記録はないとして、群馬県と鹿児島県から記録をしたが、今坂・阿比留（2012）により、長崎市彦山から既に記録がされていることが明らかになった。ここに、お詫びして訂正しておきたい。

末筆ながら、貴重な種を検査する機会を与えてくださった宮崎市の笹岡康則氏と久留米市の野田亮氏、長崎県における本種の記録の存在についてご指摘くださった、久留米市の今坂正一氏に厚くお礼申し上げます。



Figs. 1-4. *Bioxyllus natsumiae* Watanabe, 2009, ♀ (1 & 2), ♂ (3 & 4). 1-2, basal five segments of right antenna; 3-4, 5th visible abdominal sternite, ventral view. Scale: 0.5 mm for Figs. 1 & 2; 0.8 mm for Figs. 3 & 4.

引用文献

- 今坂正一・阿比留巨人, 2016. 長崎市彦山とその周辺の甲虫類 (2011) -彦山虫採り散歩(2)で得られた甲虫の2010年度との比較-。こがねむし, (78): 9-25.
鈴木 互, 2016. 関東および九州におけるネアカヒメフトコメツキダマシの記録。さやばねニューシリーズ, (21): 40.
Watanabe, A., 2009. A new false click beetle species (Coleoptera: Eucnemidae: Melasinae) from Okayama Prefecture, west Japan. The Entomological Review of Japan, 64(2): 135-138.

(鈴木 互 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科)

【短報】ヨツボシヒメゾウムシの新分布地

ヒメゾウムシ亜科ヨツボシヒメゾウムシ *Dendrobaris flavosignata* (Roelofs) は稀な種で、分布は本州、九州、筑前沖島、対馬、台湾となっているが（吉原, 2016）、筆者は屋久島産の個体を持っているので新分布として報告する。

1ex. (図 1, 2), 鹿児島県屋久島中間 - 栗生林道, 11. V. 2007, 向山敬延採集。



図1-4. ヨツボシヒメゾウムシ (1, 2) およびヨツボシハナコブヒメゾウムシ (3, 4). 1, 3, 全形図; 2, 4, 前腿節。